

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

ミャンマー・サイクロン緊急援助事業報告

募金件数: 10,629件 総募金額: 85,102,639円

皆さまのご支援に、心より感謝いたします。

サイクロンで破壊された町

事業地域の状況

1991年のバングラデシュ以来、アジアを襲ったサイクロンのなかで最も破壊的とされるサイクロン「ナルギス」が、2008年5月2日～3日にかけてミャンマーを襲い、ミャンマー史上最大の被害をもたらしました。被害は、死者約8万5千人、負傷者約2万人、行方不明者5万人以上とされ、被災地の人口730万人のうち3分の1以上の人々が、生活用品や住居などの損失を受けたと言われています。

特に、ミャンマー有数の穀倉地帯であるエヤワディ管区、ヤンゴン管区は大きな被害を受けました。生活用品や住居などの損失だけでなく、サイクロンの発生が米の作付け時期と重なったため、今期の米の収穫への影響が心配されています。また、最大80万人の人々が未だ元の生活に戻れずにいるとされ、引き続き支援が必要とされています。

支援活動内容

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、サイクロンによる被害発生直後から、ヤンゴン近郊での緊急援助とあわせ、最も支援の手を必要としているエヤワディ管区でも支援を続けています。

ワールド・ビジョン・ジャパン緊急人道支援課の坂スタッフは被災地へ赴き、その被害状況について情報収集を行いました。調査の結果、多くの被災者が備蓄していた食糧のうち、75%～100%を失ってしまったことが分かりました。また、人々は、水源の多くがサイクロンの影響で汚染されてしまったために、量も少なく不衛生な池などの水を飲んで生活をしており、さらに寺院や学校、別のタウンシップ（行政区）などに避難している一部の人々を除き、多くの被災者がダメージを受けた家屋にそのまま住んでいることなど、厳しい状況が



バンコクに届いたワールド・ビジョンの支援物資。ここからミャンマー国内へ向かった



支援物資を受け取る人々



被災者からその様子や支援で必要なものについて聞き取りを行う坂スタッフ



船で支援物資を受け取りに来た人々

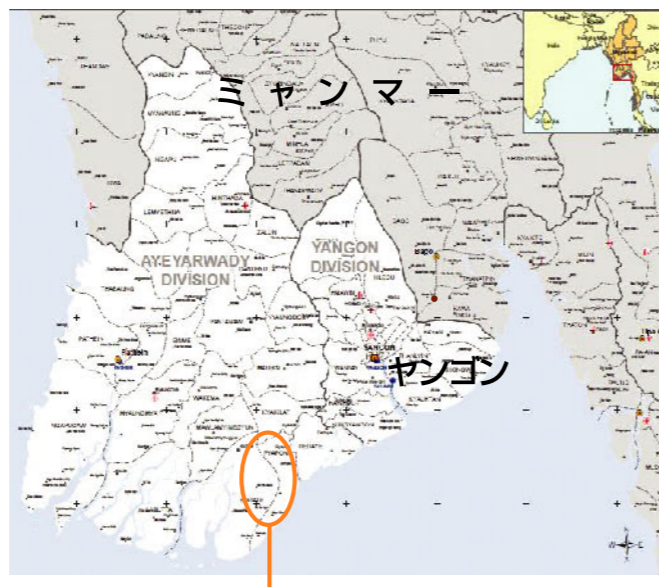
判明しました。

この結果を受けて、被災規模の大きいエヤワディ管区のうち、特にピアボン地区ピアボン・タウンシップを中心に食糧、毛布、防水シート、調理器具、衣類などの緊急支援物資の配布を行いました。また、サイクロンが去った後が雨季であったため、被災者が厳しい気象条件の中でも安全に過ごせる場所を迅速に確保する必要がありました。再建に時間のかかる住居の建材ではなく、迅速な設営が可能なプラスチックシートを配布しました。

また、今回の災害でもっとも脆弱な立場にいる子どもたちを対象とした「チャイルド・フレンドリー・スペース」を設置し、子どもたちが安心して過ごせる場所と活動プログラムを提供しました。これは、遊びや他の子どもたちと過ごす時間を通して、家族や友人を失ったり、住居を失った子どもたちが受けた心理的ショックを和らげ、また親から離れた子どもを捜す手助けをしたり、人身売買の危険から子どもたちを守る活動です。

時が経つにつれて、多くの支援団体の活動が被災地でも展開されるようになり、緊急支援物資の必要は徐々に満たされつつありました。しかし一方で、教育の復旧については十分とは言えません。当初は緊急対応の枠組みの中で、早く学習の機会を確保することを最優先し、主にテントや防水シートでできた仮設校舎の設置支援が行われていたため、校舎施設の整備は未だ遅れている状態です。これらの仮

設校舎は、当座の学習環境は確保できるものの、風雨に十分耐えられるものではない上、内部は非常に暑く、周囲の音も通りやすいために、子どもたちが勉強に集中することは困難です。これを受けて、ワールド・ビジョン・ジャパンは緊急支援物資の配布を行ってきたピアボン地区ボガレ・タウンシップにおいて、学校施設の緊急復興の支援を行っています。



ワールド・ビジョン・ジャパン支援地域、ピアボン地区

今後～ワールド・ビジョン・ジャパンスタッフの声

(緊急人道支援課 坂スタッフ)

サイクロン被災後の5月10日、緊急支援を行うために首都のヤンゴンに到着しました。被災後一週間近くが経過していたにも関わらず、電気の復旧は十分ではなく、目抜き通りでさえも薄暗く、巨木があちこちで倒壊しているなど、サイクロンのすさまじさを思い知らされました。支援に関わるさまざまな制約の中、ワールド・ビジョンはじめ人道支援団体の必死の努力で、被災者はなんとか生活を立て直しつつあります。特に、皆さまのご支援で活動しているチャイルド・フレンドリー・スペースで会った子どもたちの「普通笑顔」は、しばしばサイクロン被害の大きさを忘れさせてくれます。しかし、教育を始めた子どもたちの環境は、復興の歩みをようやく始めたところです。これからの支援が、彼らの未来

に大きな希望を与えるということを信じて、今後も復興支援を続けていきたいと願っています。



チャイルド・フレンドリー・スペースの子どもたちと加藤スタッフ

支援現場から

チャイルド・フレンドリー・スペース (以下CFS) の子どもたち

サイクロンの被害を受けたピアボン・タウンシップでは、5つのCFSを運営し、被災した子どもたち約750人が、レクリエーションや子どもの権利に関する啓発活動に参加しています。

活動を始めて2カ月、近隣の4カ村から新たにCFSを開設してほしいとの要望が寄せられました。住民リーダーは「チャイルド・フレンドリー・スペースに参加している隣村の子どもたちは、あいさつも大きな声で丁寧にできるようになり、本当に楽しそうに活動に参加しています。私たちの村の子どもたちと比べると、明るく、活発になりました。チャイルド・フレンドリー・スペースで子どもたちの世話をするボランティアやスタッフも熱心で、とても感心させられました。それで私たちの村にもぜひ来てほしいと依頼したのです」と語ります。

サイクロン被害を受けた村の子どもたちの態度や様子が変革されることで、物質的な支援だけでなく、子どもたちの心のケアの大切さが理解されたことは、ワールド・ビジョンの緊急支援の大きな成果の一つです。



CFSに集まった子どもたち

ワールド・ビジョン・ジャパンの支援内容		配布数
シェルターキット	防水シート	7,230
	ツールキット(大工道具など)	3,931
毛布	毛布	6,250
衣類	ロンジー(腰巻スカート、男性用)	3,608
	ロンジー(腰巻スカート、女性用)	3,608
	子ども用衣類	14,212
	スリッパ	8,238
調理器具	調理セット(鍋・フライパン・器・スプーンなど)	173

※皆さまからの募金と、ジャパン・プラットフォームからの助成金により配布された数です(8/23現在)

※当事業の受付は終了しました。

●お問い合わせは・・・ 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-3367-7621(支援者サービス課直通) FAX:03-3367-7652

e-mail: news@worldvision.or.jp